

「光輝（かがやき）」プログラム			転換期	3年生	(全 50 時間)
3年生で育成したい資質・能力					
育成したい 資質・能力	躍動する感性	①	人間味溢れる豊かな感覚	様々な事象とかかわることを通して、おもしろさや不思議さなど豊かに感じ取るとともに、自分とは異なる感じ方があることに気づき、その感じ方に興味をもったり、受け入れたりすることができる。	
		②	自ら学ぼうとする姿勢	学校生活や授業の中から自己を見つめ直し、自己を高めるような目標を設定し、前向きに取り組むことができる。	
	レジリエンス	③	粘り強く取り組む力	困ったときに、改善に向けた方法を考え、それを伝えることができる。	
		④	コラボレーションする力	友達と話し合い、友達と自分の考えを比べながら、よりよい考えを導くことができる。	
		⑤	複眼的に思考する力	2つ以上の事実を比べてみることで、新たな気づきをもち、見方を広げることができる。	
	横断的な知識	⑥	知識と知識を関連づけながら深く追究する力	学んだことや学んでいることを関連させて考えることで、これまでの知識に新たな視点を加えてものごとを見ようとする。	
		⑦	論理的に問題を解決する力	学校生活や授業の中から問題を見つけ、順序を意識して、解決への方法を考えることができる。	

単元名	「わくわくみっさまつり」
単元を通してめざす子ども像	三原の文化であるやっさ踊り・祭りについて学んだことを活かして、みんなを楽しませるためにどんなことをしたらよいかを考えて話し合い、自分たちがやりたいことの実現に向けて準備を進め、それらを実行することを通して、友達と協力しながら自ら進んで取り組んだり、試行錯誤しながら最後まで粘り強く取り組んだりすることができる。

段階	I (1~18)		II (19~32)		III (33~44)		IV (45~50)		
学習課題	みんなを楽しませ、自分たちの力を伸ばすためにどんなことをやりたいか。		やっさ祭りには、人々のどんな思いがこめられているのか。		やっさ祭りで学んだことを生かして、自分たちの思いを実現するために、どんなことができるか。		自分たちの思いを実現することを通して、どんな力を付けることができたか。		
育成したい 資質・能力	人間味溢れる 豊かな感覚			体験をしたりGTの話を聞いたりする					
				認識する・質問する					
	自ら学ぼうとする姿勢	目的を設定する				話し合いや準備をする		自分たちの思いを実現する	
		想起する・見直す				議論する・組み立てる		評価する・振り返る	
	粘り強く取り組む力					試行錯誤しながら考える		最後までやりきる	
						設計する・完成する		実行する・コミュニケーションをとる	
	コラボレーション する力	考えをまとめる				よりよい考えにする		臨機応変に行動する	
関連付ける・分類する				協力する・見直す		協力する・調整する			
複眼的に思考する力									
知識と知識を関連づけながら 深く追究する力	問題点を見いだす		多様な意味を追究する		できることを創造する		実践を振り返る		
	関連付ける・発見する		関連付ける・一般化する		判断する・提案する		分析する・一般化する		
論理的に問題を 解決する力									
関連する 活動	教科		社会、道徳						
	見方や考え方		歴史的、空間的、多面的・多角的						
	道徳	活動	「お父さんのじまん」の教材を基に、伝統を知って、大切に作る心について話し合う。						
		内容項目	伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度						
	道徳	活動	やっさ踊りを体験し、ゲストティーチャーから、やっさ祭りの歴史ややっさ祭りにかける思いなどの話を聞く。						
		内容項目	伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度						
	特活	はたらきかけ	一人一人のよいところを見つけて、交流させる。	地域の行事を自分事としてとらえさせる。	小集団で一人一人の思いを出し合い、お互いの思いを共有させる。	小集団で一人一人の思いを出し合い、お互いの思いを共有させる。			
はたらきかけ		小集団で一人一人の思いを出し合い、お互いの思いを共有させる。		自分自身にできることを見付け、取り組ませる。	友達のよいところを見つけて、お互いのがんばりを認め合わせる。				

評価方法	ポートフォリオ・観察	ポートフォリオ・観察	ポートフォリオ・観察	ポートフォリオ・観察・相互評価
------	------------	------------	------------	-----------------

「光輝（かがやき）」実践記録		転換期	3年生	(全50時間)		
単元名		「わくわくみっさまつり」				
段階	評価方法	資質能力	子どもの姿		教師の気づき	
					計画変更点・理由	有効であった手立て
I	ポートフォリオ 観察	② ③	2年生までの学習内容を想起し、にこにこ運動会やCM作りの取組を通して、相手のことを考える力やあきらめない力が身に付いたと感じていた。 3年生でやりたいことについては、これまでの経験の範疇からの発想にとどまり、広げることが難しかった。			昨年度の光輝ファイルを見ながら、学習内容を想起させ、成果や課題を見いださせた。 小集団や全体での話し合いの場を繰り返しもち、一人一人が自分の思いを出し合い、お互いの思いを共有できるようにした。
	ポートフォリオ 観察	⑥	コロナ禍で学校行事や地域の祭りができなくなっていることから、自分たちが1年生の時に招待してもらった「だるままつり」のように、「みんなを楽しませることをやりたい」と考え、「3年三原楽しみ文化祭」を行うことを決定した。			
II	ポートフォリオ 観察	①	ゲストティーチャーからやっさ踊りを教えてもらい、やっさ踊りの楽しさを体験した。やっさ踊り振興協議会の小林さん、三原市教育委員会文化課の山崎さん、やっさ祭り振興協議会会長の森光さんに、それぞれの立場からやっさ祭りにかける思いを語っていただき、やっさ祭りのもつ多様な意味を理解することができた。			社会科の学習と関連付けたり、ゲストティーチャーとの出会いを位置付けたりすることで、やっさ祭りのもつ多様な意味にふれさせるようにした。
	ポートフォリオ 観察	⑥	社会科の学習で、やっさ踊り・祭りがもつ多様な意味を追究した。その中で、やっさ祭りが伝統・文化を継承して、人々のつながりを創出し、非常時の拠り所となっていることに気付いた。			
III	ポートフォリオ 観察	② ③	社会科での学びを生かして、夏休みまでに取り組むプロジェクトを「やっさ祭り」に決定し、「わくわくみっさまつり」と命名し、チームに分かれて計画を立てることにした。			社会科の学習を踏まえて、みんなを楽しませるだけでなく、三原の文化について知らせたいという切実な思いをもとに、みっさまつりについてのイメージをもたせることができた。
	ポートフォリオ 観察	④ ⑥	1・2年生さんを招待して、三原の文化について知らせ、楽しんでもらうためにどんなことができるか、チームごとに計画を立て、準備を行った。本番直前に、リハーサルを行って気付きを交流し、アドバイスを踏まえて改善していった。			
IV	ポートフォリオ 観察	② ③	1・2年生をクラスごとに招待し、みっさまつりを行った。回を追うごとに、活動時間を十分とって楽しんでもらえるように、進行をスムーズに行い、下の学年に積極的にかかわろうとする姿が増えていた。			付けたい力を自己評価する前に、がんばったことや友達のよかったところを交流することで、達成感を共有することができた。
	ポートフォリオ 観察・相互評価	④ ⑥	みっさまつりを振り返って、がんばったことや友達のよかったところを交流した後、一人一人の付けたい力の伸びを評価し、全体で交流した。			